

〈10月の御言葉〉

「わたしは命のパンである。」(ヨハネ6:48)

ヨハネによる福音書6章1節以下には、主イエスが一人の少年が差し出した大麦のパン五つと魚二匹を受け取られ、感謝の祈りを唱えてから、座っている大勢の人々すべてに分け与えられたことが記されています。パンと魚を受け取った人の数は、男の人の数だけで五千人ほどでした。そこに集まっていたすべての人が空腹を満たされただけでなく、食事のあとに残ったパン屑を集めると、十二の籠いっぱいになるほどだったのです。

この出来事は多くの人々の心に鮮明に刻まれました。わたしたちはこの日、食事に与った人の数の多さに驚かされますけれども、大切なことは主イエスがこの出来事を通して伝えようとされたこと、そのことにあります。主は「わたしは命のパンである」と言われました。そうです。最も大切なことは、パンを差し出して、「これを取って食べなさい。」と仰ってくださいるその方こそ、わたしたちを真に生かす「命のパン」であってくださいるということです。

主イエスは、わたしたちに朽ちることのない命を与えるために十字架に死なれ、三日目に死に勝利して復活されました。復活の主と出会い、導かれて伝道者とされたパウロは、ガラテヤの教会に宛てた手紙の中で「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです(2章20節)」と述べています。「わたしは命のパンである」と仰ってくださいる方への信仰が強く言い表されているのではないのでしょうか。

(久野真一郎)